



CAMERA EYE

撮影日：3月3日

次の世代を担う薬剤師を育成

学ぶことが楽しくなる薬剤師国家試験予備校メディセレスクール

コミュニケーションが支えるこれからの医療

明るい笑顔とユーモラスな話し声があふれるここは、なんと薬剤師国家試験の対策予備校。国家試験につきものの「難関突破」「猛勉強」というイメージは一切ない。

「どうせしないといけない勉強なら、楽しくやらなきゃと思っただけです」と話すのは、薬剤師国家試験対策予備校メディセレスクール代表の児島恵美子先生。教室で楽しみながら、いつの間にかきちんと学べているというユニークな授業法は児島先生の経験から編み出されたもの。

自ら薬剤師の資格を持つ児島先生は、学生時代、国家試験へのプレッシャーから「楽しくすることはできないだろうか」と思い、ユーモアたっぷりの語り合わせを作って学習に生かした。これがまわりの受験仲間にも好評だったことが、今の教育理念につながっている。

この予備校の大きな特長は、講師全員が心理カウンセラーの資格を持つこと。カリキュラムの中にはカウンセリングの講座もあるほどで、そこには児島先生の薬剤師としての哲学がある。例えば徐々に効果が表れる薬の場合、飲み続けてもらうことが大切だが、医師や薬剤師がきちんと説明しないと「効果がない」といつて服用をやめてしまうケースも



メディセレスクール
児島恵美子
代表取締役社長

各講師が試験の「やま」を伝授しながら、受験生の緊張をほぐしていく



ある。うつ病などは顕著な例で、正しい服用方法を伝えることはもとより、患者さんの意向や状態を正確に把握することが大切。医療の現場では、より一層のコミュニケーション能力を身に付ける必要があると児島先生は考えている。

メディセレスクールから巣立った薬剤師たちには、ただ薬を渡すだけではなく、薬を求める患者側の気持ちに寄り添い、共に病に立ち向かうことができる「医療人」としての資質が備わっている。受講生たちを惹きつける楽しい授業も、コミュニケーションの重要性を説く講師陣によるところが大きいのだろう。

日々、人材の育成に取り組みながら、児島先生の目線はもつと先の、日本の医療の在り方に向けられているのかもしれない。